

オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート 2月 気持ちの切り替え

2月は、非常に寒い日が続きましたが、幸運にも、フィンドレーに来る前に予想していた大雪が降ることは無く、車の運転にも苦労することが無かったので非常に助かりました。フィンドレーの友人に聞いた話だと、例年だと、フィンドレーの2月は積雪があるらしいのですが、今月はほとんど雪が降らなかったため、大学や会社でも不思議がっている人達が沢山いました。さて、今月は、私がアメリカに留学して大変と感じたこと、そこから学んだことについて紹介させていただこうと思います。

大学からニッシンブレイキへの気持ちの切り替え

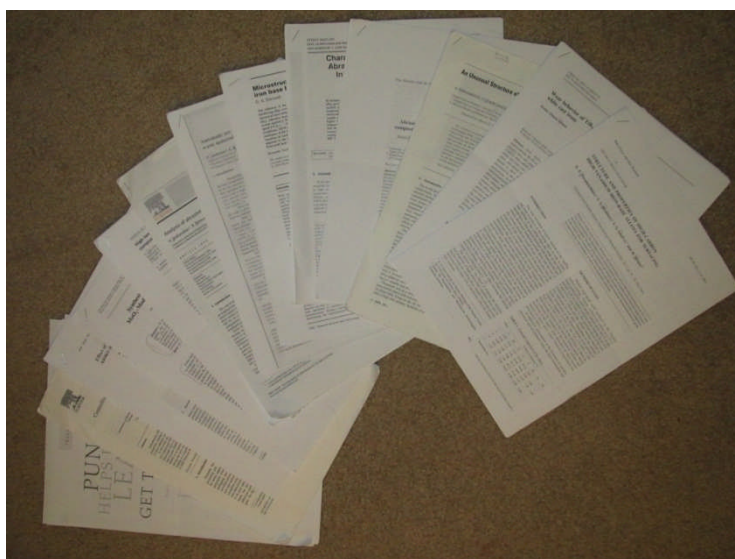
午前中、フィンドレー大学で英語を勉強した後、ニッシンブレイキへ行く支度をし、会社へ向かう車の中で学生から研修生へと気持ちの切り替えをします。会社にいる時は、自分は学生ではなく、会社の一員のつもりで行動しようと試みるのですが、最初のうちは、その気持ちの切り替えが上手くできず、また、使う言葉の切り替えも非常に難しかったことを覚えています。仕事の場でアメリカ人の上司と接するときを使う英語を、大学生のクラスメイトに使うものよりも丁寧にしようと心掛けていたのですが、無意識にインフォーマルな英語を使ってしまうことがしばしばあり、そのたびに反省をしていました。そんな反省をしているうちに大学から会社への気持ちの切り替えにも慣れてきて、今では状況に応じて英語の使い分けがスムーズにできるようになりました。また、日本人駐在員の方々がどのようにアメリカ人社員とコミュニケーションをとっているのかを観察しながら学ぶことも多いので、研修生という立場でこのような貴重な経験をさせていただける事を非常にありがたく思います。



インターンシップの様子

大学の宿題

今月は、中間テストがありました。中間テストが近づくと宿題や課題が増えていき、論文6本の文献解題（要約や考察の作成）や論文批評のパワーポイントの作成、論文一本を読む課題を一日で終わらせなければいけない日がありました。その日は不運にも体調を崩してしまい、モチベーションを保つのが非常に難しく、一秒でも早く床に就きたい気持ちでいっぱいでした。そんな中でも何とか短い睡眠時間を削り宿題を終わらせることができ、非常に辛かったです。それを乗り越えたことが大きな自信になりました。日本とアメリカの大学の宿題の量は、アメリカの大学の方が断然多いと聞いていましたが、こちらに来てから毎日それを実感させられています。勉強しなければ単位が取れないという重圧が非常に強いので、遊びの時間と勉強の時間の切り替えをしっかりとしないと後々に大変なことになると思います。そのため、タイムマネジメントの大切さを認識している学生達が非常に多く、また、娯楽から勉強、勉強から娯楽の切り替えが非常にしっかりとしています。日本では少し曖昧にしていた「タイムマネジメント」ですが、これを機に習慣づけていこうと思います。



大学の宿題